No.488
1
2018

くみあいだより

JAなんぽろ

JA なんぽろホームページアドレス　http://www.ja-nanporo.or.jp

南幌町農業協同組合

年頭にあたり

南幌町農業協同組合
代表理事組合長
清水　義雄

新年あけましておめでとうございます。

組合員の皆様には輝かしい平成30年の新春を、ご家族皆様ご壮健で新年を迎えられましたことと心よりお慶び申し上げます。

また、平素より農協事業へ特段なるご理解とご協力を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返り見ますと融雪期は平年より6日早く、春作業も順調に経過し、4月から5月は高温・多照に経過しました。6月は平年並の日照でしたが気温は低めで降水量は平年の2.5倍と多雨となり各作物とも生育は緩慢で作業も遅れぎみとなりました。

7月は一時的な降雨で降水量はやや多めとなりましたが気温は高く、多照となり、その後8月に入って低温・寡照傾向で推移し、降雨は偏りがありましたが量はやや多くなりました。

9月の気温はやや低めで、降雨も多かったが、晴れの日があり多照となり、暖候期を通じて平均気温は平年並で、降水量は多く、日照時間も多めとなりました。

水稲は移植期が平年より2日早く活着は良好で、6月上旬からの低温・寡照傾向で初期の分げつは抑制されたもののその後、天候が回復し分げつは増加、不稔は平年より少なく、穂数・総籾数は平年並となりましたが、稔実歩合が高かったため収量は平年を上回り、タンパク含有率は低い傾向となりました。

秋まき小麦は融雪後の好天により追肥作業も順調に行われ、起生期以降の高温傾向で生育も順調に推移し出穂期も2日早くなりました。7月に入ってからの異常高温により登熟が促進され、4日早く成熟期を迎えました。収穫作業も好天により順調に進み、病害虫の発生は一部の圃場で被害が確認されたものの比較的少なく、穂数はやや多かったものの、粒重がやや軽く収量は平年並となりました。

農業情勢については、国際貿易交渉のTPP11、日EU・EPA、米国との貿易交渉など、合意内容や農業経営への影響など生産現場に十分伝わっていないこともあり生産者は将来に対する大きな不安を抱いております。

また、農協改革については規制改革推進会議・農業WGがまとめた「農協改革に関する意見」から、准組合員の利用規制の導入や中央会の一般社団法人化等が提案され「中央会制度の廃止に関する改正農協法」に基づき平成31年9月末までに農協法上の連合会に組織変更されるなど、今後においても准組合員の利用規制など更なる提言や介入がされる懸念があります。

ついては、自主・自立を掲げるJAの存続そのものを脅かす提言やJAグループの自己改革を尊重しない過度な介入や、非現実的な要求を突き付けられることがないよう、全国段階などと連携し、政府・与党への働きかけを強化していくことが重要であります。

さて、JAグループ北海道自らの対策として「JA北海道大会決議事項」に基づき、「農業所得20％増大」「道民と食と農でつながるサポーター550万人づくり」「JAの経営基盤強化」など自己改革に徹底して取り組むこととしており、本年はその総括年度となります。

また、当JAの農協事業中期計画「SCRUM（スクラム）」の最終年でもあり、「組合員とともに永続可能な農業・健全な農協基盤づくり」を実践し農業所得の増大に向けて生産・販売対策に取り組み、永続可能な南幌町農業を目指して事業展開してまいりますので、組合員各位のご理解と一層の結集、ならびに積極的な農協利用をお願い申し上げます。

迎えた本年がご家族はじめ組合員皆様が事故なくご健康で過ごされ、豊かで実り多き明るい年となりますよう心からご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

謹賀新年

代表理事組合長　清水　義雄
専務理事　林　裕司
常務理事　辻崎　徹
理事　橋本　寛
理事　織田　章
理事　土井　雄治
理事　石川　幸彦
理事　小谷　恭司
理事　高島　茂和
理事　久保　正彦
代表監事　河村由紀男
監事　白倉　隆幸
監事　野尻　忠勝

年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会
会　長
飛田　稔章

組合員並びにＪＡ役職員の皆様方には、ご健勝にて輝かしい平成30年の新年を迎えられたものと心よりお慶び申し上げます。

皆様方におかれましては、日々の営農と併せ、地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対して、改めて敬意と感謝を申し上げる次第です。

昨年の北海道農業は、春先は晴れの日が多く、気温も高かったことから農作業・生育も順調でありました。９月中旬以降は、雨の日が多く収穫作業に遅れが発生し、特に９月18日の台風18号によって、全道的にデントコーン・水稲の倒伏、農業施設の損壊などにより、農作物の品質、収量に懸念が生じたところでした。

しかしながら、結果的には、米は、作況指数が１０３の「やや良」、小麦・てん菜は、収量・品質とも平年作、生乳は、全般的に安定基調と組合員の皆様の努力の成果が報われた１年となりました。

平成28年９月に４つの台風の影響により、河川の氾濫、農地の流出、関連施設の損壊、停電による生乳廃棄など、全道各地で甚大な農業被害が発生し、その傷も完全に癒えない中ではありますが、昨年元旦に新聞紙上で意見広告を行った『それでも種をまく。』という農民魂のもと、ＪＡグループ北海道は着実に前を向いて歩んで参ります。

一方、国際貿易交渉の状況は、ＴＰＰ11、ＥＵ・ＥＰＡ、米国との貿易交渉など、その進展状況と合意内容、農業経営への影響など生産現場に十分伝わっていないこともあり、将来への不安を抱え、担い手の生産意欲の減退が懸念されるところです。

農協改革、規制改革では、生産資材価格の引き下げと見える化、牛乳・乳製品の生産・流通においては、新たな加工原料乳生産者補給金制度を盛り込んだ改正畜産経営安定法が成立するなど農業政策対応に追われた１年でありました。

ＪＡグループ北海道は、今後とも必要な農政運動や国民理解へ向けての情報発信、ＪＡ経営の基盤を強化し、組合員の皆様の不安を払拭し、持続可能な北海道農業の確立に向け、万全な対応を図って参ります。

さて、現在、ＪＡグループ北海道は、第28回ＪＡ北海道大会のメインテーマである「北海道５５０万人と共に創る 力強い農業と豊かな魅力ある農村」の実現に向けた決議事項に基づき、その着実な実践を図っているところであり本年はその総括年度となります。

昨年はＪＡグループ北海道の実践状況について、全体共有を図るとともに実践への機運を高め、ＪＡグループ内外に実践状況を発信すべく、新規担い手倍増と５５０万人サポーターづくり・准組合員制度をテーマにＪＡ北海道大会実践フォーラムを開催致しました。

引き続き、ＪＡグループ北海道の英知を結集し、北海道５５０万人から信頼され、ともに歩んでいくＪＡグループ北海道を目指して参ります。

関係各位の特段なるご理解とご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

結びになりますが、今年の干支は戊戌（つちのえいぬ）です。

一説には、戊は、「茂」に通じる意味があり、「植物の成長が絶頂期にある状態」を表しているとのことであります。

今年は、この戊年にあやかり、天候に恵まれ実り多い豊穣の一年となりますよう、併せて、北海道農業並びに組合員、役職員の皆様の一層の発展を心よりご祈念申し上げ、新年にあたってのご挨拶といたします。

新年のご挨拶

JA なんぽろ青年部　部長
白倉　翔平

新年明けましておめでとうございます。昨年中は青年部活動に際し、各関係機関の方々並びに組合員の皆様にはご理解とご協力頂きましたことを厚くお礼申し上げます。

昨年は春先の天候に恵まれスタートをきったものの、6月の低温と日照不足で作柄が不安視されるなか7月以降の好天で生育の遅れを取り戻し、水稲においては収量もさることながら品質においても低タンパク傾向と良好でありました。価格においても昨年より上昇し高い取引価格で推移しました。小麦においては若干の収量減であったものの全体を通し豊作年でありました。

農政においては衆議院総選挙が行われ、自民・公明の連立与党が大勝利をおさめ、政府が訴え続ける市場原理や競争を軸足に農業の成長戦略が加速し、米の直接支払交付金の廃止にともなう新たな米政策、卸売市場改革の議論が本格化されるも先行きは依然不透明であります。

さて、昨年度の活動を振り返りますと、なんぽろ冬まつりでのピュアライスの無料配布による米消費拡大PRから始まり、JA夜まつり、収穫感謝祭、ホクレンくるるの杜での南幌産農産物の対面販売を行い、青年部で作成したファームレターを配布し消費者と直に触れ合い南幌町の農業のPRを行いました。また、なんぽろ4Hクラブ、JA青婦部との交流会等を通し他団体との交流も積極的に行いました。食農教育においては南幌小学校の5年生を対象とした学習田での稲刈り、くるるの杜で行われている「畑の学校」に参加し農業経験のない親子と一緒に農作業も行いました。更に昨年は8年に1度の実績発表の当番単組ということで今まで積み重ねてきた青年部活動を空知の大会で発表させて頂きました。

その他、視察研修、勉強会の開催を通しそこで得たことを今後の営農に活かしていきたいと思います。そして我々青年部は「交流」から生まれる新たな可能性を原動力に食と農の大切さを伝えてまいります。

最後になりますが、本年も各関係機関、組合員の皆様方にはご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせて頂きます。

JA なんぽろ女性部　部長
鈴木　きみ

新年あけましておめでとうございます。

女性部活動に対して各関係機関並びに組合員の皆様方には、ご理解とご協力を頂きましたことを厚くお礼申し上げます。

たくさんの協力を頂いた中での視察研修で行った小樽では、和菓子製作体験がありました。道具が並べられていて、どうやって使うのだろう、こんなの使って作るんだと思いながら作り始め、難しいと思いながら出来上がったのはなんと、アジサイの花、キクの花、そしてかわいいカッパで、出来栄えはまずまずでした。製作しながらお話を聞いた時、乾燥させたら、しばらくの間そのまま置物として置けると聞いた私は、まだ食べずに置物として飾ってあります。

段々フレッシュミズさんの参加が増えてきてうれしく思い、フレッシュミズ視察研修では、雪印メグミルク工場を見学し、時代を感じさせる商品が展示されていて、フレッシュミズさんとの会話も弾みワクワクしながら工場見学をさせて頂きました。帰りには、1人1人にお土産もいただきました。

収穫感謝祭では、役員さんの協力で恒例のひもクジもやりました。新鮮野菜を持ち寄りレジ袋に入れ、ひもに縛り沢山の方々とのふれあいもさせて頂きました。

各家庭の外仕事も落ち着き、11月には、エーコープ酢料理講習会も開催されました。地元産米、地元産野菜、そして、たまご・肉・魚・沢山の食材を使っての料理を学びました。エーコープ酢を使った私の料理のレパートリーも増えました。

食育事業の一環として年明け早々には南幌小学校6年生を対象にした、餅つき体験も予定しています。ここでは、青年部の力もお借りして杵・臼をセッティングして頂き6年生の思い出の1つになるように頑張るつもりです。その他にも女性部懇談会、女性部大会を予定しています。懇談会では、身になる講演、女性部大会では講演や作品制作の展示・販売など盛り沢山の内容で楽しんでいけるよう役員一同で取り組んでまいります。

女性部員・フレッシュミズの皆様にはたくさんの参加よろしくお願い致します。今後も私たち女性部は皆様のご協力を仰ぎ、力を合わせ頑張って活動していきたいと思います。各関係機関、組合員の皆様におかれましては、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げ新年のご挨拶とさせていただきます。

活動の成果を報告

12月6日（水）、ＪＡ3階大会議室で南幌町４Ｈクラブ活動報告会が開催されました。

活動報告では、最初にアグリメッセージとして、山岸大騎さん（(有)野楽）、白倉良太郎さん（鶴城）が就農したきっかけや自分が好きな作業、将来の目標について話していました。

ゼミナール活動報告では、畑作班の山形優斗さん（(有)アシル）より近年道内で問題となっている「コムギなまぐさ黒穂病」をテーマに、４Ｈクラブ員が考える病害発生原因や感染経路、対策について発表されました。

次に、鈴木弘和会長（(有)豊夢）からは、「クラブ活動報告」として、南幌町４Ｈクラブの概要や活動内容について説明され、最後には今後の活動について発表されました。

▲アグリメッセージの発表を行う山岸大騎さん

▲鈴木会長の質疑応答の様子

▲報告会後の集合写真

女性部短信

◆ビュー華「さまざまな講座を開催」

ＪＡなんぽろ女性部部会「ビュー華」では、11月からさまざまな講座を開催しています。「片付け講座」・「包丁研ぎ講座」・「ストレッチ講座」など、部会員が学びたいことを全女性部員へ声掛けし、活発的な活動を行なっています。

今後もさまざまな講座を予定しておりますので楽しみにしていてください。講座の案内は同報ＦＡＸにて致しますのでお気軽にご参加ください。

次回講座の案内

「着付け講座」
日　時：平成30年1月12日（金）
　　13時30分～15時30分
場　所：あいくる　和室
参加費：１００円

「初心者向け手芸講座」
日　時：平成30年1月24日（水）
　　13時～15時
場　所：ＪＡなんぽろ会議室
参加費：１００円

※詳しくは同報ＦＡＸでの案内をご覧ください。

▲「片付け講座」の様子

▲「包丁研ぎ講座」の様子

▲「ストレッチ講座」の様子

◎女性部大会のご案内

日　時：平成30年2月19日（月）
場　所：ＪＡなんぽろ3階大会議室
負担金：1，０００円
内　容：講演『ひざ・こし楽々
　　～足腰元気に！あへあほ体操～』
　講演『我が家をパワースポットに！
　　～心地の良い暮らしのつくりかた』
　作品展示・即売会
　恒例のビンゴ大会も予定しています！
※後日ＦＡＸにてご案内いたします。

あへあほ体操考案者
しもの　まさひろ　氏▼

海外視察研修報告

JAなんぽろ青年部
池岡　真吾

第29回空知管内ＪＡ青年部海外視察研修に10月29日から11月４日の７日間で、オーストラリアのリートン、シドニーを中心に稲作、小麦農家や野菜農家を視察してまいりましたのでご報告させていただきます。

１日目は、新千歳空港に集合し結団式のあと、韓国の仁川空港に移動し、オーストラリアへ向かいました。

２日目は、オーストラリアに入国した後、すぐに国内線に乗り換えてリートン市内へ移動し、リートンビジターインフォメーションセンターへ訪れました。オーストラリア国内では、ニュー・サウス・ウェールズ州だけで米作りが行われており、その他にもみかん・シトラス・クルミなども作られておりました。ここでは年間降水量が３００㎜～５００㎜ととても乾燥しているので本来は、水の必要な米作には向かない土地でありますが、ここでは灌漑により米作りが行われていました。播種作業は、播種機を使って行うが面積が広いので、空から飛行機を使って行うこともあると言っておりました。年間の収穫量は７５０万トンと１haあたり10ｔとかなりの収穫量があり驚きました。

３日目は、ヤンコー高校に視察しました。ここでは、全校生徒が約３２０人おり、99％が地元の人たちが多く、ほとんどの生徒が寮生活をしていました。敷地もとても広く１８０haで米、小麦などを灌漑、乾燥農業、酪農をしていてすべての作業を生徒さんが行っていると言っていました。また馬・豚・牛・鶏などのファームも充実していました。ここの牛は筋肉や毛並など能力を競う大会でいつも優秀賞をいただくほど、たくさんの賞などが学校に飾られていました。あいにく、生徒さんのテスト期間で教室は見られませんでしたが、寮や食堂、洗濯室など規模が大きくとても充実している印象を受けました。

午後からは、２０００haあるリートンエリアのファームのうち、４５０haを所有しているドレイパーファームに訪問しました。この農場では、米・麦・キャノーラ・綿花を栽培しており、最近は雨が全然降らなく麦の調子が悪いので、雨が少なくてもいい作物の綿花を増やしていると話しておりました。米・綿花などは川から水を引いており必要な時だけ水路を開け水を入れる。使える水の量は決まっておりますが上限まで使うことはないと言っておりました。４５０haと広大な圃場を管理しているのにも関わらず、トラクターが2台で管理していることにも驚きを感じました。

４日目は、シドニーに戻りフレミントンマーケットを視察してきました。国内最大の市場施設で、青果卸売市場、生産者直販市場などそれぞれ区切られており集約していました。たくさんのカートやフォークリフトが行きかうなか、生産者市場では２００近くの農家さんが自分の畑で採れた作物を直接販売しており、またエージェントに頼んで価格設定もして卸す販売もしているようです。買い手はやはり小売りやレストランが多いそうです。売れ残った作物などは廃棄するのではなく動物の餌に、傷みの少ないものは、ホームレスのご飯などに活用される場合もあると言っておりました。

次に35エーカー（約14ha）あるベジタブルファームに訪問しました。作っている作物はズッキーニ、キャベツ、レタス、ピーマン、白菜などたくさんの野菜を家族２人、お手伝い２人の４人で栽培を行っていました。土曜日には、フレミントンマーケットに野菜を売りに行き、今時期は、白菜が８～10玉で50ドル～１００ドルの値段がつき驚きを感じました。畑に生えている雑草は日本と変わらず、スベリヒユ、ヒエ、スズメノカタビラなど共感できる部分がありました。ここでも雨が少なく川からため池に水を汲み、散水機を使用して水を散布していました。冬でもほぼ雪が降ることはなく、霜が降ることがあるのでシートをかけたり工夫をしていました。

午後からは、Agricultural Machinery Plantへ訪問しました。ここでは、ジョンディアの機械を扱っており、他にもニューホーランド、ケースなども扱えるそうです。シドニー近郊では、面積が少ないのか１４０馬力のトラクターが大きいトラクターだと言っておりました。セー

ルスの人は、1週間に1台売るノルマがあるらしく、年間約150台のトラクターが販売されております。

5日目は、デイブ氏が経営するブルースデール農場を視察しました。ここでは、1100haの広大な土地を利用し、羊6000頭を放牧していました。主に牛毛と羊肉を取り扱っていて、他の農場へ牧草の播種や飼料の収穫作業を請け負い生計をたてています。羊毛は6000頭を4人で10日間かけ刈り取りを行っていました。羊肉については11ヶ月未満の羊はラム肉として国内で販売し、それ以外のマトンは中国や台湾などに輸出している。

午後からは、ベストウィック農場の視察を行いました。経営主のジョン氏は85歳で1200haを所有しておりキャノーラなど複数の穀物類などを作っています。ここの農場はシェアファーマー制度を利用し行っています。シェアファーマー制度とは農作業の実務をやってくれる人を募集し、その方に年間マージンとして売り上げの何割かを支払っている。ちなみにジョン氏はこの制度を利用し農地を継承され、現在シェアファーマーとして31歳のシェアパートナーが継承してくれることを期待しているそうです。

6日目はワイナリー見学やボンダイビーチ、オペラハウスなどを観光しクルーズ船でディナーを楽しみました。

今回の視察研修を終え感じたことは、経営規模が違うことはもちろんのこと、「水」と「労働者」と「後継者」不足が近年の課題となっているように思えました。また1週間の研修期間で空知の青年部の盟友達と親交を深め、素晴らしい仲間作りができたことに、心から感謝したいと思います。

最後になりますが、海外研修に参加するにあたり、皆様方にはご支援をいただき厚くお礼申し上げ、研修報告とさせていただきます。

長船技師による営農情報！

★戌年（いぬどし）の水稲作況と米価について

十二支の起源は、古来中国で使われてきた日や月、刻を表したもので、十干と十二支を組み合わせたものが暦（カレンダー）として使われていました。

「戌」は「一印」と戈（ほこ）」からなる字で「穀物を収穫してまとめる」意味があります。十二支十一番目の干支で、あてられた動物が犬となりました。

明治 21 年（1888 年）からの作況調査で戌年の水稲作況と米１俵の価格推移を下記の表にまとめました。戌年は冷害等の気象災害等は少なかったことがわかると思います。

さて本年はどうなるのか、豊穣の秋を祈願するところです。

表１　戌年の水稲作況と生産者価格の推移

西暦（戌年）	元号	反収（kg）	作況指数	冷害型	１俵（60kg）価格	出来事
1898	明治31年	167			３円28銭	西郷隆盛銅像除幕式
1910	明治43年	212			５円36銭	大逆事件
1922	大正11年	191			10円20銭	日本農民組合創立
1934	昭和９年	138	62	障害	14円80銭	東北地方冷害凶作
1946	昭和21年	266			200円20銭	日本国憲法公布
1958	昭和33年	385	126		3,880円	東京タワー竣工
1970	昭和45年	443	109		8,152円	大坂万博
1982	昭和57年	501	105		17,797円	500円硬貨発行
1994	平成６年	541	108		16,266円	関西空港開港
2006	平成18年	558	105		15,138円	第１回ワールドベースボール開催

注１：北海道の水稲作付面積と反収の推移・作況指数から抜粋作成

注２：米価に関する資料（明治31年～昭和21年）

注３：米穀（政府買入価格・昭和33年～平成18年）、政府統計総合窓口から引用

町内の生産者の方々を紹介します！

春子さんは雅人さんへ、「子供をたくさん作り後継者を作って欲しい。また、健康面には、気を使ってもらいたい。」と話していただきました。

雅人さんは春子さんへ、「これからも無理をしない程度に手伝っていただきたい。」と話していただきました。

川向営農振興組合
福富　春子さん（65歳）

川向営農振興組合
福富　雅人さん（36歳）

■家族構成：【母】春子さん【妻】紗幸さん【長女】心花さん
■作付状況：米8.4ha、秋小麦10.8ha、大豆7.1ha、甜菜2.3ha、地力1.6ha
■経営移譲：平成27年６月

現在、約30haの農地に水稲、小麦、大豆、甜菜を作付している雅人さんは、お母さんの春子さん、奥さんの紗幸さんの３人で農業を営んでおります。

雅人さんは、南幌高校を卒業後、９年間一般企業に勤めた後、27歳でUターン就農しました。雅人さんは、就農したきっかけは「特にはなく、農業が嫌いだった。」と言っていたものの、昔からよく手伝いはしてくれていたと、春子さんが話していました。

春子さんは、「昔は、近隣の農家と競い合っていて、負けたくない気持ちはすごくあったが、それもすごく楽しかった。」また、「昔は、近隣の農家と遊ぶときはみんなで遊んだり、仕事をする時はみんなで仕事をして、メリハリのある生活も楽しかった。」と話していました。

昨年までネギを作付しており、雅人さんは作業をほぼ１人で行っていたそうです。春子さんは、「１人で作業をするのは大変だったと思うけど、野菜を作る楽しさを知ってもらえてよかった。」と話していました。

雅人さんは、「今は、すべての作物に力を入れてるけど、特に、お米と大豆にはさらに力を注いでいる。もっと、品質を向上したいし、面積ももっと増やしていきたい。」と話しておりました。

収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）に係る書類の提出について

標記の件につきまして、平成29年産米に係る書類を下記の通り農業振興課までお持ちくださいますようお願い申し上げます。

なお、例年、販売委託契約書等の書類の署名欄に、**署名・押印が無いものが散見されますので、署名・押印の上**お持ちくださいますようお願い致します。

生産数量目標を確認できる書類及び米穀品位等検査の結果を確認できる書類

米の販売・出荷区分	必要書類（コピーやFAXで可）		
	販売委託契約書	検査結果通知書	販売・出荷伝票等（※）
JA外へ出荷	○	○	○
JAへ出荷	**ＪＡ出荷分**につきましては**確認書類等**は**不要**です。		

※ ・ 平成30年３月31日までに米穀機構傘下業者に販売し、又は販売を委託した米穀にあっては、出荷した数量を確認できる書類**（平成30年４月以降に販売するものは対象数量外となります。）**

・ 対策加入者が販売契約を締結したものについては、販売の相手方と締結した販売契約書の写し、販売伝票の写し等、平成30年３月31日までに販売対象として数量を確認できる書類

・ 対策加入者が販売受託者と販売委託契約を締結したものについては、販売受託者と締結した販売委託契約書の写し、販売受託者の販売伝票の写し、販売受託者が対策加入者に対して通知した販売代金清算書の写し等、平成30年３月31日までに販売を委託し販売対象とした数量を確認できる書類

ＪＡバンクなんぽろ口座で共済掛金をお支払いされている方へ

短期共済年払い契約における振替日の変更のお知らせについて

短期共済（年払）契約についてシステム変更により平成30年２月１日より下記のとおり掛金振替日が月末日から27日に変更となりますのでご了承願います。

ご不明な点等ありましたら、ＪＡなんぽろ共済課までご連絡をお願い申し上げます。

該当契約　ＪＡバンクなんぽろ口座で掛金をお支払いされている方で「自動車共済」「火災共済」の「年一括払い」契約

振 替 日　**月末日 → 27日**（土日祝日の場合は金融機関の後営業日）

変 更 日　**平成30年２月１日**からの振替分より

お問い合わせ　ＪＡなんぽろ　金融部共済課
℡　011-378-0841（直通）
平日　９：00～17：00

理事会報告

12月8日

12月定例理事会で審議された主な内容について、次のとおり報告申し上げます。

【議　案】
1、定款の一部変更について
2、臨時総会の開催について
3、臨時総会の提出議案（総会参考書類）について
4、臨時総会議決権行使書面の取扱いについて
5、出資金の減口について
6、固定資産の除却について

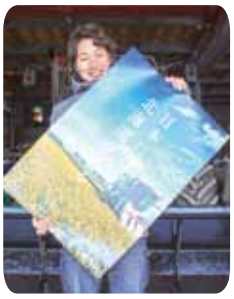
【報告事項】
1、第7回　営農振興組合長会議の開催結果について
2、平成29年度　秋の経営懇談会の開催内容について
3、平成29年度　経営所得安定対策交付額の経過報告について
4、新たな米需要拡大・需給安定対策に係る基金の拠出について
5、11月末　農産物保管状況について
6、11月末　蔬菜販売状況について
7、オンサイトモニタリングの結果について
8、11月期　JAローンの貸付について
9、内部監査実施報告（第3四半期末）について
10、平成31年度　職員採用計画について
11、年末手当の支給について
12、平成30年度　職員採用の内定について
13、永年勤続表彰と記念品について
14、南幌町新年交礼会の開催について
15、反社会的勢力との取引排除に係る対応状況について
16、11月末財務状況について

ホクレンのポスターに抜擢

ホクレン農業協同組合連合会の北海道農業PRポスターに神馬悟さん（(有)ほなみ）が抜擢されました。

このポスターの製作は、4月中旬より打ち合わせが行われ、神馬さんは9月下旬に行われた稲刈りのシーンがポスターになりました。

このポスターは、当JA事務所にも展示しておりますので、ぜひお立ち寄りの際はチェックしてください。



～表紙の紹介～

◎今月号の表紙は、当JA役職員の年男・年女の9名に表紙を飾っていただきました。

私達のJA

平成29年11月末日現在

組合員	2,824名
（前年同期比	▲30名）
正組合員	475名
（前年同期比	▲16名）
准組合員	2,349名
（前年同期比	▲14名）
正組合員戸数	307戸
（前年同期比	▲7戸）

編集後記

・新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。年末年始は豪華な食事が多く、つい食べ過ぎてしまいますよね。平井を見かけて前年より太ったなと思ったら声をかけてください。減量します。

発　行　JAなんぽろ　〒069－0293　空知郡南幌町栄町1丁目4番7号
TEL 011－378－2221（代表）011－378－2274（直通）FAX 011－378－0846　発行日　平成30年1月9日
ホームページ　http://www.ja-nanporo.or.jp　メールアドレス　koho@ja-nanporo.or.jp
企画・編集　営農部農業振興課　印　刷　北海道リハビリー